

氏名	森 美紀	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	母性看護学、助産学、看護教育学				
学位	修士（看護学）				
学歴	1992年3月埼玉大学教養学部教養学科、2003年3月千葉大学看護学部看護学科、 2009年3月千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程				
経歴	2010年4月～2014年3月埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科助教、2017年4月～2019年3月同左（育休代替）、 2019年4月～2022年3月武蔵野大学看護学部看護学科准教授、 2022年4月～埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科准教授				
所属学会（役職）	日本母性看護学会、日本母性衛生学会、日本助産学会、日本看護科学学会、日本生殖看護学会、 埼玉県立大学保健医療福祉科学学会				

【2023年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	「心理的介入を含むリンパ浮腫予防支援プログラム」心と生活を整えてLet's リンパ浮腫予防 実施マニュアル	共著		全51ページ	土屋雅子、増島麻里子、木全明子、田崎牧子、森美紀、藤田理紗子	2024年3月
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	妊産婦急変時の多職種連携における看護職者の体験	共著	あり		母性衛生 64（4） 722-729	樋口えりか、坂上明子、森美紀
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	高齢不妊カップルへの不妊治療に関する意思決定支援における困難と課題	共同		第25回日本母性看護学会学術集会（東京都）	○青木恭子、坂上明子、森美紀、大月恵理子、青柳優子、林ひろみ、林はるみ	2023年5月
2	多文化共生社会の推進を目指した周産期看護職対象のプログラム「やさしい日本語」試行研修会の実践報告	共同		第43回日本看護科学学会学術集会（山口県）	○浅井宏美、齋藤恵子、千葉真希子、森美紀・山口乃生子	2023年12月
3	分娩介助実習直前の助産学生における模擬産婦シミュレーション演習前後の実習意欲の変化	共同		第5回看護シミュレーションラーニング学会学術集会	○東原亜希子、柴田由里子、山本英子、森美紀、兼宗美幸、齋藤恵子、浅井宏美、千葉真希子、齋藤未希、堀口香織、鈴木幸子	2024年2月
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤C）			高齢不妊カップルのための初診から治療終結に至る意思決定支援ガイドの作成	研究分担者	2019年4月～ 2024年3月
2	文部科学省 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤C）			高齢不妊カップルのための不妊治療に関する意思決定支援ガイドの実装研究	研究分担者	2022年4月～ 2025年3月

3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	周産期のケア	○	3	助産系（3年生22名）の必修科目であり、演習科目である。「健康教育」「地域での子育て（虐待予防を中心）」等、講義を担当した。これまでの実務経験をもとに、より具体的な例を紹介するなど工夫した。
2	母性看護学Ⅱ		4	3年生130名の必修科目である。妊娠期の講義を担当した。妊娠の生理、身体面、心理面、異常時等について、既習の知識を確認しながら看護支援を例示し、学生が具体的に考えられるよう促した。適時、学生に質問を投げかけるなど、学生が主体的に授業に参加できるよう留意した。
3	分娩期のケア		2	助産系（3年生22名）の必修科目である。異常分娩と看護の講義を担当した。既習の知識を確認しながら、看護支援について例示し、学生が具体的に考えられるよう進めた。関連する過去の国家試験問題を提示し、学生に問いながら双方向性となるよう留意した。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	分娩期のケア		34	分娩介助技術演習および技術試験について、主担当として学生の主体性や積極性・自主性を重要視して取り組んだ。対面だけでなくTeams等のコメント機能を活用し、学生の疑問・質問に対応し、学生の練習が円滑に進むよう心がけた。また、助産過程ではGW前半および発表を担当した。総じて、助産学生として、対象者に寄り添い、思いやる気持ちを大事にできることの重要性を伝えることに留意して関わった。
2	母性看護学Ⅱ		10	産褥・新生児期の架空事例に基づいた看護過程の演習で、5-6名×8グループの支援を担当した。情報を適切にとらえ、根拠に基づいたアセスメントをすることおよび対象者を総合的に捉えることの重要性を伝えた。また、学生の主体性・自主性を尊重しつつ、適宜疑問・質問に対応した。
3	周産期のケア	○	16	助産師外来演習については副担当として、学生が妊婦を総合的にアセスメントし、支援につなげられる視点に気づけるような関わりを意識した。CTG演習では、補助教員として学生の装着技術について助言・支援した。その他演習すべてについて、統括した。模擬集団健康教育のGW及び発表会については科目責任者としての統括を行い、円滑な学習につながるよう努めた。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	助産学実習Ⅰ	○	2023年5月～6月	助産系（3年生22名）の必修科目である。市区町村保健センター4施設において、学生が、地域で暮らす母子だけでなくその家族にも目を向けて支援を考えられるよう、また、地域と病産院との連携の必要性に気づけるような関わりを重視した。科目責任者として、実習が円滑に進むよう、施設と調整した。 学内カンファレンスでは、5-6名×2Gを担当し、学生間の実習体験の相違からの学びの共有を重視して関わり、限られた期間の実習の学びが最大限となるよう支援した。

2	助産学実習 II		2023年6月～9月	学内代替実習および産科病棟での実習を担当した。新規実習施設を担当し、学生が円滑に実習できるよう、施設と調整した。また、特に病棟実習では、助産師学生としての倫理観と責任感を意識でき、学べるよう関わった。また、思考の整理や技術の獲得について支援した。学内実習を4事例担当し、4例目では、新たな架空事例を作成し、模擬産婦を活用することで、より臨床に近い経験ができるように工夫した。
3	母性看護学実習		2023年5月～6月	本実習での新規施設を含む2施設を担当した。病棟実習では、1Gあたり5名の学生が円滑に実習できるよう、施設との調整を密に図るよう努めた。また、母子の健康状態だけでなく、愛着形成の視点も大切にしたり関わりができるよう支援した。
4	総合実習（母性看護学領域）		2023年7月	病棟・外来実習を補助的に2施設を担当した。カンファレンスも含め、母子の地域での生活まで見据えた支援を考えられ、最大限の学びとなるよう支援した。
5	IPW実習		2023年10月	対面実習にて、1施設1G6名を担当した。教員FTとして施設FTとの密な相談・調整を心がけた。学生個々の専門性に目を向けつつも、相手を尊重して関わることの重要性に気づけるような関わりを意識し、活発な討議を支援した。

(4) 論文指導

	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2023年4月～ 2024年12月	主指導 4名	副指導 0名

(5) その他

	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	川口市立看護専門学校	2024年2月～3月	「論理学2」を、非常勤講師として7コマ中4コマを担当した。事例を提示して、グループでの討議を中心に進めた。

4. 社会貢献活動

(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師

	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	ベビーマッサージ講師	越谷市児童館ヒマワリ	生後3か月～8か月児のベビーマッサージ教室	2024年3月
2	産科スタッフのための「やさしい日本語研修」	埼玉県立大学	産科スタッフのための「やさしい日本語研修」第1回、第2回	2023年12月 2024年2月
3	オープンカレッジ講座 SPU TABUNKA MANABI Café	埼玉県立大学	多文化学びカフェ	2023年10月

(2) 国、自治体、学術団体等における委員等

	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期
1	越谷市 人権・男女共同参画推進課	男女共同参画推進委員	2023年7月～ 2025年6月
1	日本母性看護学会	学術支援委員	2021年4月～現在
1	日本母性看護学会	第25回学術集会企画委員	2021年4月～現在
2	日本母性看護学会	選挙管理運営部会委員	2020年10月～現在
2	日本国際看護学会	日本国際看護学会第7回学術集会	2023年11月

(3) ジャーナリズムでの発言

	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		

(4) その他

	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			

5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	看護学科 入試実施部会	2022年4月～ 2024年3月
2	学科等における委員会等	就職支援プロジェクト	2022年4月～現在
3	大学広報活動	オープンキャンパス企画・運営	2022年4月～現在
4	学生支援	2年生担任	2022年4月～現在
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		